

APU

立命館アジア太平洋大学

Ritsumeikan Asia Pacific University

# PROGRESS REPORT

立命館アジア太平洋大学 プログレス・レポート  
[2002年・夏号]

特集：APUの教育プログラム



Summer 2002

Vol. 18



# 巻 頭 言

駐日タイ王国特命全権大使

カシット ピロム



## 「相違と理解」

立命館アジア太平洋大学（APU）は、21世紀への幕開けに開学しました。日本の一角に位置し、日本とアジア太平洋地域、そして世界とを結ぶ重要な場所となっています。APUを通して日本はグローバル・ビレッジに門戸を開き、グローバル・ビレッジはAPUを通して日本につながっています。APUでは英語がコミュニケーションの媒体であり、日本語や他の言語も教えられ、また使用されています。そこでは、人間同士が触れ合い、友情が育まれ、アイデアの交換が行われています。スイスやスカンジナビア諸国において国際的な学術センターとして成功したInsead Institute in Fontainebleau やInstitute of Social Studies in the Hagueなどの機関を思い出す方も多いことでしょう。最近ドイツでは、英語を媒体とした学術環境なくしては経済や政治は完全とはいえないとして、その例に従いました。そしてAPUもまた、知識の探究・普及という点において、同じように有名になると思われます。APUは、知的探究活動の場であると同時に、人と人との交流の場でもあるのです。つまり、学術的舞台でもあり、文化的舞台でもあるという二つの機能を持ちあわせた場だと言えます。

APUの学生は皆、APUで与えられる機会を最大限に利用すべきでしょう。教室の中で学ぶだけでなく、教室の外でも生涯学習を追求していくことが大事です。日本人学生はもっと何事にも関心を持って、アジア太平洋や他の地域を訪れ、さらに勉強に励んでほしいと思います。また、APUでの生活を経験することによって、国外へと出かけて行く勇気を持ってほしいと思います。外には、出会ったことのない多くの人々や見るべきもの、経験すべきことがたくさんあるのです。

APUの国際学生には本や教室という枠を超えて、自分たちのものとは異なる日本の文化・社会の特徴をよく理解し、分別をもって長所と短所を冷静に見分けてほしいと思います。国際学生は、日本では箸を使用することが普通で、ご飯は食事の最初やおかずと一緒に出されるのではなく、最後に出されるということや、家屋は小さいながらも植物や装飾されたブロックや石などで飾られていること、物が大切に保存され、適切に配置されていること、どこも清潔で整然としていることなどに気づくでしょう。街は人や建物で込み合い、人々は忙しい生活を送っているようにも見えますが、その傍らでは静かな通りがあり、木が植わり、水が流れ、石が配置された公園があるのです。日常の喧騒のなかに、静穏があるとでもいいましょうか。日本の社会は、物質的、技術的にはたいへん先進的でありながら、神社や寺、着物、お祭りなどが、長い歴史と高度な文化を彷彿させます。超高速で走る新幹線がある一方で、一服のお茶を点てたり、それぞれが芸術品ともいえるような食器に盛った装飾的な料理を作るためのゆっくりとした時間が存在するのです。

日本社会はよく統制がとれており、皆がルールに従い、他人を敬うようです。何をするにしても方式や取り決めが存在し、だれもが自分の立場を心得、何が求められているかを理解しています。人々はよく本を読み、テレビを見たりラジオを聞いたりするといった、見識・教養のある社会といえるでしょう。それでいて、日本人は個人よりも全体を優先します。何か問題があれば皆で相談し、決定するのです。

国際学生には、自分の国との違いに気づくと同時に、それらを認め、受け入れてほしいと思います。偏見を持ったり、優劣をつけようとするべきではありません。良いものは故郷に持ち帰り、日本の友達やそこの生活から学んだ良いことを、故郷の人々に伝えてください。

これが国際教育の目的であり、国際教育そのもの、そしてAPU設立のねらいなのです。

21世紀に入り、私たちはますますグローバル化していきます。知識を増やし、技術に適応し、寛容になり、違いを認めて受け入れ、良いことを選び、悪いことは切り捨てていくことができるようになります。それゆえに、私たちはさらに国際理解を進め、より平和で寛容な世界を創り出していく努力をしていかなければなりません。

株式会社東芝 相談役

佐藤 文夫



## 「未来を拓くフロントランナーたれ」

1990年代以降、世界はグローバル化、ITネットワーク化、サービス化という3つのメガトレンドが社会の既存の価値や秩序を変えつつある。

それは我が国を支えてきた行政、経済、金融、企業、教育システムといった全ての分野に変革を迫った。しかし、我が国はこの10年、対応が決定的に遅れ、結果として、全ての面で長い停滞の中にある。

我が国の産業の生産性をみると、米国を上回るのは電機、自動車、精密機械等の早くから海外との競争にさらされ、自らの手で国際競争力を培ってきたわずか10%の産業のみである。あとの90%は劣位にあり、共通点は、戦後一貫して政府の保護・規制を受け、競争のない閉ざされた世界に置かれてきたということである。

同じことは教育の世界にも言える。我が国の大学は今や国際的なランキングでは最低水準に位置づけられている。これは、我が国の大学が長年閉鎖的なアカデミズムの世界に安住し、変化を忌避し、海外の大学との競争等、切磋琢磨を回避してきたことのツケが、今回ってきたということに他ならない。

一国の将来を決めるのは人材であり、それを育てる教育である。

世の中がグローバル化する中で、日本の大学も広く世界に窓を開き、競争と交流によって自らを鍛え、改革していくことが必要であり、最近遅れ馳せながら、産学連携や国立大学の独立行政法人化等、ようやくそうした動きが出てきたことは慶ばしい。

このような状況の中で、立命館アジア太平洋大学がいち早く画期的な開学の理念を掲げ、世界に開かれたユニークな多国籍人材の大学として力強く発展していることは誠に慶ばしく、頼もしい限りである。しかも首都圏ではなく地方に立地したことは、地方の発展にとっても意義深い。これからは企業も大学も人材を世界に求めて発展していかなければならない。APUが日本の大学変革のフロントランナーとしてさらに飛躍し、世界が期待する有為な若い人材を世界に送り出していくことを期待したい。



# [特集] APUの教育プログラム

## 1 学部教育の特徴

立命館アジア太平洋大学（APU）では、21世紀の国際社会で活躍できる資質と能力をもった人材を育成することを目的に、各学部（アジア太平洋学部＝APS、アジア太平洋マネジメント学部＝APM）のカリキュラムを編成しています。APUは、世界64カ国・地域から集まる留学生が学生の約半数を占め、教員も約半数が外国籍という「マルチカルチュラル（多文化）・コミュニティ」です。キャンパスでは、これらの学生・教員が一体となり、民族・宗教・文化などの違いを越えてともに学び、相互に理解を深めています。

### (1) 日本語および英語による2言語教育

基礎教育科目は、原則的に日本語で行うクラスと英語で行うクラスの両方を開いています。専門教育科目でも多くの科目で両方のクラスを開いています。

### (2) 学生参加型・双方向型授業の重視

少人数制の演習科目では、フィールドワークやケーススタディなどの実践・参加型教育を展開しています。講義科目においても質疑応答や討議などの形で学生が参加できる双方向型授業を重視しています。

### (3) プロジェクト型学習の重視

演習科目では、具体的なテーマを定めてその問題点の分析、解決方

法の検討などを行うプロジェクト型学習を重視しています。また、その成果をインターネットやキャンパス外での研究発表会などを通じて、積極的に社会に発信していきます。

### (4) ネットワーク型学習の展開

世界約40カ国・地域の120以上の協定大学・機関との交流を進めています。特に、これらの大学・機関への留学や立命館大学との交流を積極的に進めています。さらにアドバイザー・コミティをはじめとする各界の第一線で活躍されている方々による講演、授業などを展開しています。

## 2 多様な教育プログラム

APUでは、大学が提供するカリキュラムだけでなく、意欲と能力がある学生がより一層力をつけられるようさまざまなプログラムを設けています。その主なものは次の通りです。

(1) 立命館大学との交流プログラム	総合学園のメリットを生かし、同一法人が設置する立命館大学への短期留学、単位互換、遠隔講義等を実施しています。
(2) 交換留学	現在、海外の大学（15カ国・地域の25大学）と学生交換協定を締結しており、今後さらに増加する計画です。
(3) 海外言語研修	夏セッション（8・9月）、冬セッション（2・3月）に3～5週間、海外の大学で言語を学ぶプログラムで、8カ国9大学に派遣しています。
(4) 早期卒業プログラム	3年または3年半での卒業をめざす、成績優秀学生が登録できます。登録時、登録の1年後、そして卒業直前に審査（成績・面接）を行います。
(5) 協力科目	各界の第一線で活躍している方からご講義をいただくことを目的に実施しています。協力機関は、九州経済産業局、日本政策投資銀行、国際協力銀行、国際協力事業団（10月から）、財団法人裏千家淡交会の5機関です。
(6) キャリア形成	インターンシップの準備およびフォローアップを行う科目、学生のキャリア意識を高めるための科目を設置しています。

## 3 大学院設置の基本目標

APUでは、より高度な専門能力をもった人材の育成を行なうため、下記を基本目標とする大学院を2003年4月に設置する予定です。

- 1) APU大学院は、アジア太平洋地域における産業育成と国際協力のための人材育成を積極的に推進します。
- 2) APU大学院「アジア太平洋研究科」は、「アジア太平洋学」という新しい教育研究領域の構築と発展に資するとともに、その研究拠点となることをめざします。
- 3) APU大学院「経営管理研究科」は、アメリカ合衆国のビジネススクールの経験者を多数招へいし、国際的スタンダードのMBAを実現します。
- 4) APUは、開学以来、地域の国際化と地域振興への貢献を進めています。大学院も、この地域における高度な国際交流、教育研究拠点の構築に寄与します。



## Special Report : Education Program

Report

## 早期卒業プログラム

ACCELERATED PROGRAM

現在の社会においては確かな専門知識を身につけて即戦力として活躍できる人材が求められています。専門性への期待が高まる中、国内・国際社会を問わず各分野での活躍をめざし、自らの夢を現実にしていくためには、早い段階からその夢に見合ったキャリア形成をしていく必要があります。APUでは、最短3年で卒業をめざす学生のための「早期卒業プログラム」を設置しています。これは、APUにおける多様な学習ニーズに応え、早期に卒業をめざす優秀な学生の学習努力を励ますためのプログラムです。早期卒業プログラムで早期に卒業するためには、基準（通算GPA、修得単位数、面接など）を満たすことが必要となっています（①参照）。

APUでは各科目の全体評価において、期末試験の点数が占める割合を50%以下（例：期末試験50%、出席点20%、中間レポート30%）としています。そのためより多くの科目で単位を修得し、かつ好成績をあげるためには、日常のレポートや出席点など継続的な取り組みが不可欠となります。2003年に卒業をめざしている登録学生は現在26名ですが、将来の目標が明確であり、講義においても中心的なメンバーです。

APUでは、進路・就職、履修方法などの個別相談や、3回生配

当科目の2回生時の前倒し受講など、登録学生へのさまざまなサポートを行い、優秀な学生のキャリア形成を積極的に支援しています。多くの登録学生は大学院進学を卒業後の進路とし、勉学に励んでいます。また卒業後に就職を希望する学生は、多数の科目を履修しながら就職活動を行わなければならない、その点では決して容易なプログラムではありませんが、企業からの受入れも具体的に進んでおり、すでに3回生の春の時点で日本のトップ企業から採用内定を受けている学生も出ています。



## ①早期卒業プログラム登録基準

	通算GPA	最低取得単位	その他
第2セメスター（登録）	3.2以上	32単位以上	登録面接
第4セメスター（継続審査）	3.2以上	74単位以上	
第6・7セメスター（最終審査）	3.2以上	124単位以上	最終面接、言語能力の審査

※ 通算GPA（Grade Point Average）とは修得した単位を数値にしたもので、計算方式は以下の通りとなります。  

$$\frac{[(A+ \text{の単位数} \times 4 \text{ポイント}) + (A \text{の単位数} \times 3 \text{ポイント}) + (B \text{の単位数} \times 2 \text{ポイント}) + (C \text{の単位数} \times 1 \text{ポイント}) + (F \cdot \text{不合格の単位数} \times 0 \text{ポイント})]}{\text{総修得単位数}}$$

※ なお通算GPA3.2は目安として学部毎の成績上位者の1割未満となります。

## [参考] 成績評価

評価	得点率	可否
A+	90%以上	合格
A	80~89%	
B	70~79%	
C	60~69%	
F	59%以下	不合格



## VOICE



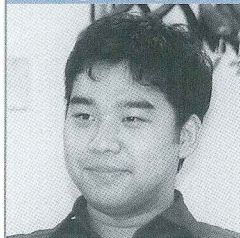
早期卒業プログラム選択

TAE Chung Won

(APM3回生 韓国)

私はもともと自分に厳しく、目標を乗り越えていくのが好きです。APUに入学した時には毎日の生活そのものがチャレンジでしたが、時間が過ぎていくとともに日本での生活に慣れ、もはや自分の限界を試すことができなくなりました。だから私が新しく選んだチャレンジが早期卒業プログラムです。私はAPUに来て自分の視野を広げることに集中してきました。私が視野を広げるというのは学問的な面のことだけではなく、異文化の理解や経験の蓄積などのいろいろなことを示します。ですから、これまでの2年間勉強にはもちろん力を入れ、大学以外で行われたいろいろな行事にも積極的に参加してきました。来年APUを卒業したら、大学院に進学するつもりです。大学院に入ったら大学で身につけたさまざまなことを十分活かしながら、まだまだ未熟な自分の専門知識をもっと深めようと思っています。

## VOICE



早期卒業プログラム選択

竹本 慎也

(APM3回生 日本)

早期卒業プログラムの達成には、非常に高いハードルが課せられています。単に大学で4年間を過ごすのではなく、明確かつ高い目標を設定し、そこへ向けて自分を飛躍的に成長させたいと考えたため、早期卒業に挑戦しました。

これまでの2年間は、国際学生との接触を通して、『自分自身のアイデンティティを確立すること』が大きな目標でした。彼らと接していると、極めて本質的な質問にぶち当たります。入学当初、答えに窮することが多かったことに、大きな衝撃を覚えたのです。そこで、彼らと正面から向き合うことを通して、自分自身をもう一度、一から探る日々が続きました。

勉学の面では、マーケティング、中でも「ブランド」に強い関心を持つようになりました。幸い、希望していた広告業界の代表的企業（株式会社博報堂）から内定を頂くことができました。今後は、広告という側面からブランドの確立やマネジメントに携わり、さまざまな経験を積んでいきたいと思っています。

## Report

# 交換留学制度について

## STUDENT EXCHANGE PROGRAM

APUでは6月末現在で世界15カ国・地域の25大学と学生交換協定を締結し、学生交換を積極的に推進しています。2002年秋セメスターまでに約40名の学生を交換することになります。

交換留学制度では、基本的に海外の協定校と同数の学生の交換が原則となっています。しかしながら、実際には海外の学生は言葉と文化の壁に阻まれ、日本の大学への留学を希望できず、

大幅なインバランスが生じている現状があります。

2002年春、アメリカ合衆国テキサス州で開催されたNAFSA（米国国際教育協会）総会では、日本における大学国際化のフロントランナーという立命館の名声が、海外でも定着してきているということが感じられました。中でもAPUはその日英2言語教育により、日本の大学にて専門科目を学ぶという留学本来の



## 【学生交換協定校】2002年6月末現在

目的を実現可能にする大学というイメージが定着してきました。今後、交換留学だけにとどまらず、多角的な交流の実現や国際的アライアンスの形成などにも取り組んで行く予定です。

交換留学に参加を希望する学生は、現地大学から求められる言語能力の合格基準をクリアするとともに、明確な学修計画の提出が求められます。GPA（成績）や学修計画、志望動機等の1次書類審査後、2次審査としてAPU教授陣による面接により推薦者を決定します。最終的には語学能力を証明する試験結果（英語圏であればTOEFL550程度）や願書を提出し、現地大学より入学が許可されます。留学期間は通常1～2セメスター（半年～1年間）です。留学期間是在学期間に算入されるので、4年間で卒業が可能です。留学中に取得した単位は60単位を上限に認定されます。なお、学費はAPUに納入するため派遣先の大学に納入する必要はありません。

グローバリズムの潮流の中で、高等教育も国境を越えた協力が不可欠になってきました。APUは5月、4世紀以上の伝統を誇り、オランダのトップ大学として世界的にも名を知られるライデン大学と学生交換協定を締結しました。同大学の副学長は調印式で、世界でも高い評価を得ている伝統校であるライデン大学でさえ、もはや1国1大学のみで教育機会を提供するのは

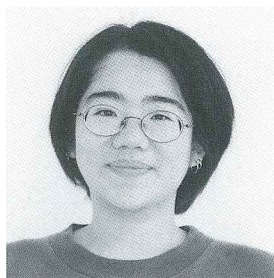
オーストラリア	……ラトロブ大学	マレーシア	……マラヤ大学
	マコーリー大学	オランダ	……ライデン大学
カナダ	……ブリティッシュコロンビア大学	サモア	……サモア大学
中国	……東北財経大学	シンガポール	……シンガポールマネジメント大学
	上海交通大学	タイ	……サイアム大学
台湾	……国立政治大学		タマサート大学
	国立台湾師範大学	イギリス	……ウエストミンスター大学
エクアドル	……太平洋大学	アメリカ	……アメリカン大学
フランス	……ESCIP		ハワイ大学
インドネシア	……ガジャマダ大学		オクラホマ大学
	インドネシア大学		
韓国	……高麗大学		
	慶熙大学		
	釜山大学		
	蔚山大学		

学生の要望を充足できないという話をされました。世界中で大学のコンソーシアム化が進む現状を背景に、国・大学を越えた単位認定システムの開発やデュアルディグリー、ジョイントディグリープログラムなど、国境を越えて2つ以上の大学で専門科目を学び、それぞれの大学で卒業資格や学位証書を得るような動きも加速化する一方です。

今後APUは、協定校の増加とそれに伴う受入れ・派遣学生の数的増加、既に一部の大学と実施している派遣国企業でのインターンシップが可能な留学、上に述べたようなデュアルディグリー制度など、文字どおり世界をキャンパスとした学習機会を一人でも多くの学生に提供していく予定です。

## MAK Wai Yee (APS、マレーシア)

## VOICE



帰宅して、ワールドカップが開催される日本に行けると知ったとき、私は有頂天でした。日本のテレビ番組や映画とともに育ち、日本の作家が大好きだった私は、ずっと日本に来たいと思っていたのです。日本は、進んだ技術を持ちながらも伝統的な文化が息づいているというイメージがありました。私はまた、日本語を勉強したいと願っていたので、それには日本に来るのがいちばんだと思っていました。

母国マレーシアでは、クアラルンプールにあるマラヤ大学で勉強しています。最初にAPUに来た

ときは、慣れるのに時間がかかりました。マラヤ大学では授業が50分であるのに対して、APUでは95分あります。また、履修の方法についてもずいぶん違いがあることがわかりました。マラヤ大学では、他の学部から資料をもらったり、専攻を変更することも簡単にできます。

大学卒業後は日本の大学院で学びたいと考えているので、ここで日本式の生活に慣れておくことがいい経験になるでしょう。これまでのところ、すべてうまく行っていると思います。



Report

# リサーチプロジェクト (APS3回生ゼミ) 「映像による地域研究」

## RESEARCH PROJECT

APUでは、3回生からゼミが始まります。現在APSではリサーチプロジェクトとして22、APMではケーススタディとして23のゼミが開講されています。今回は、APSの市岡康子教授のゼミをご紹介します。

### ■ 目 標

大分県内の一つの町または村の現地調査を行い、その地域の現状と問題点について文書レポートを作成し、提言までをまとめます。最終的には映像によってレポートすることを目的とします。

春セメスター開講前から手分けして県内各地域の情報収集を行い、自治体の積極的な姿勢、地理的な条件などを考慮して、安心院（あじむ）町を調査することに決定しました。安心院町は司馬遼太郎氏が「盆地の景色としては日本一」と書いたところです。

### ■ 調査開始

4月初旬に情報収集を担当した学生と安心院町を訪れ、調査テーマ策定のために役場の企画調整課担当者に現状についてのインタビューを行いました。

その結果、農業を基本とする安心院町の特性から、以下の4つのテーマに絞ることにしました。

- 1) 農業最前線－営農組合の活動
- 2) 農家滞在型グリーンツーリズム
- 3) 新規就農者誘致プロジェクト
- 4) 福祉－農村の独居老人

学生には興味のあるテーマを選んでもらい、3～4人からなる4グループが各々1テーマの調査にあたることになりました。

第一次調査は、安心院町に3日間合宿

して、役場の方にブリーフィングしていただくことから始まりました。全体説明の後はグループごとに各地に散り、インタビュー調査を行いました。学生ですからお金もなく、安い宿を捜していたら、町営のバンガローを半額で提供して下さるなど、ずいぶん親切にいただきました。以後は各グループがさらに現地調査を深めるという型で進行しています。



クラスでは調査内容をまとめて発表させました。学生同士で質問や意見を言い合い、私はあいまいな点を指摘したりインタビューをまとめる際の切り口を明確にするよう助言を与えたりしました。学生たちの思考を刺激できたのではないかと思います。

春セメスター中にレポートを完成させるのですが、学生はスケジュールをたてるのに慣れていません。ですから、私が期限を設け、いつ何をしておくべきかを指導しています。学生たちはスケジュー

ルを見て初めて、慌てはじめます。

レポート作成のみならず、いろいろな練習を重ねたほうが良いと思い、文書の書き方も練習させました。安心院町に提出する調査の申込書を書かせたのです。初めての経験で、私的な手紙のような体裁のものもありました。添削した上、最終的に私が作成して提出したものと比較させました。

### ■ 教員の役割

ゼミの担当教員として、私が学生のために行ったのは、次のようなことです。まず、調査地で友好的に受け入れていただくための地ならしです。安心院町役場に正式に申し入れ、町長のごあいさつと概要説明というセレモニーで始まりました。次に、安心院町といっても広いですからテーマによってはその中の一地区に的を絞り、役場のほうから声をかけていただきました。これで住民の方への聞き取りがしやすくなりました。それから前記4つのテーマの柱を立てました。学生に任せれば有意義な訓練になったのですが、セメスターの限られた時間の中では、テーマの設定に何週間もかけられないという制約があります。その他、調査の方向性や、どこに焦点を当てるかなど、学生だけではなかなかまとまらない点について、現地や教室内でのアドバイスを心がけています。



## 市岡康子

アジア太平洋学部教授

日本の民間放送局で、30年以上テレビドキュメンタリーの制作にあたる。1966年～1990年まで放送された「すばらしい世界旅行」(日本テレビ系)では、アジア太平洋を担当。年間平均5カ月は同地域でフィールドワークにあたり、諸民族の生活スタイルや文化を記録する民族誌番組を制作した。



## ■ 経験を活かして

社会に出ればどんな職場でも、「調べて書く」ということが求められます。アウトプットにはさまざまな形態がありますが、私の場合は映像が専門です。文書によるレポートと映像は決して同じにはなりません。しかし優れた映像作品は、時間をかけて調査した土台があって初めてできあがるものです。絵が上手に撮れた、アングルが良いということだけではありません。私は映像制作の50%は調査にあると思っています。「調べて書いて映像にする」という一つのプロセスを経験してくれたらいいと思っています。

最終的には、多少の提案を含んだレポートを安心院町にさしあげたいと考えています。調査先で調査の結果を知りたいという方がけっこういらっしゃるのです。第三者の意見にも触れたいという

ころでしょうか。調査をしながら見つかった問題点について、学生が彼らなりに考えた解決方法を提言してみると、刺激になるかもしれませんね。学生はみな、



現実にぶつかって触発されているようです。最初は映像を作ることに興味をもってこのゼミに入ったメンバーでも、今では調査そのものを楽しんでいるようです。毎週のようにフィールドに通っているグループもあります。あとはレポートの

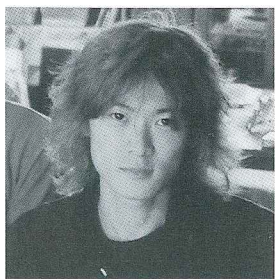
出来がどうなるか楽しみです。

現在、14名中国際学生が3名です。日常会話にはまったく不自由していないのですが、現地に行き、日本人の話を2時間半も集中的に聞くのはたいへんだったと思います。フィールドワークは共同作業ですから、日本人の学生がバックアップしています。

秋セメスターでは、完成したレポートをもとに映像制作に入るわけですが、レポートをそのまま映像にすることはできない、ということを理解してほしいですね。題材をさらにしぼって切り込んでいくわけです。レポートで表現したことを具現している人物に集約するなどすれば、魅力ある作品ができることでしょう。このあたりは、私の経験を活かしてアピールのあるものに仕上げられるようにアドバイスしていきたいと思っています。

## 西 憲明 (APS3回生、日本)

## VOICE



このゼミを選択した一番の目的は、フィールドワークを通して、特定の地域についてさまざまな立場の人々の、生の意見を取り入れながら調査し、直接人と触れ合うことで勉強に限らずいろいろな事を学ぶことです。春セメスターでは、安心院町の新規就農、農業、グリーンツーリズム、福祉といった4つの班に分かれ、各班ごとに調査を行い、その調査結果を文章化するという作業を行っています。市岡先生には、授業の中で調査を行うためのポイントやインタビューの留意点、また調査の方向性の修正などさまざまな面で指導や助言を

いただいています。市岡先生の授業では、先生の厳しい指摘や場を和ませる冗談などの両面が、特別な緊張感をもたらし、とても良い雰囲気勉強することができます。また、フィールドワークの中で市岡先生の的確なポイントをついた質問にはいつも驚いています。現在、私は安心院町の松本地区について調査を行っていて、これからその松本地区の調査だけでなく、イベントなどにも積極的に参加し、松本の発展につながるような協力をしていきたいと思っています。



Report

# APUの言語教育

## LANGUAGE EDUCATION

APUは、学生入学定員の半数（400名）を留学生枠とする新しい国際大学として開設されました。日本人学生を送り出すことが国際化の主な方向性であった大学の現状に一石を投じ、「受け入れることによる国際化」をめざしていることが一大特徴です。APUの言語教育は、この考え方を支えるものとして設計されています。

### 1. 2言語教育

APUの大きな特色である2言語教育は、入学時に高度な日本語能力があることを条件から外すことを可能にしています。基礎教育科目は、原則として、同一の科目が英語と日本語の両方で提供されます。専門教育科目は約7割の科目が英語と日本語の両方で提供されています。

日本人学生は、1・2年次には英語を集中的に学習するとともに、日本語により提供される基礎教育科目を履修します。この間に、3年次以降英語で授業が受けられる英語能力を修得し、かつ専門教育に必要な基礎学力を身につけることができます。3年次以降は、すべての科目が両方の言語で提供されるわけではないため、英語で行われる授業もとらなければなりません。現在の3回生は登録科目の約2割を入学時の基準言

語と異なる言語で受講しています。

この背景には、大学で提供されるすべての授業を言語学習の場とみなす考え方があります。日本の言語教育は、これまで、言語教育と専門教育を切り離して扱っていたといえるでしょう。また、修得した言語を運用する機会を大学教育の中で与えてこなかったともいえます。APUの2言語教育は、これを統合しようとする試みでもあります。

### 2. コンテント・ベース教育

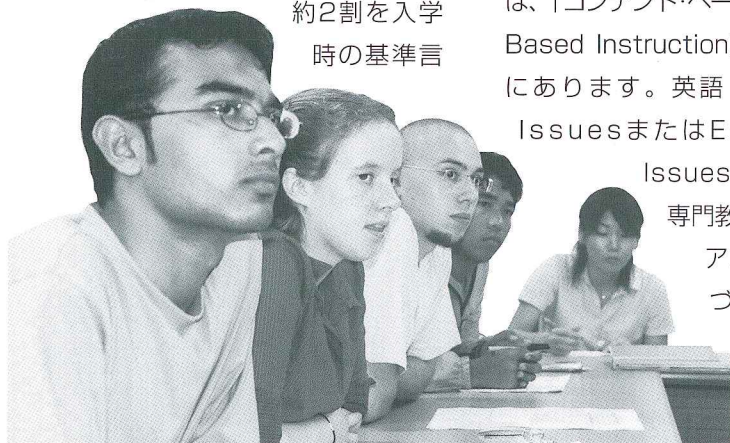
英語教育と日本語教育は、上述した言語教育と専門教育の統合を図るという考え方が底流にあります。日常会話が中心の日本語入門・日本語Ⅰ以外の各科目は、学術的なトピックを主題とした科目として設計されています。この理論的背景は、「コンテント・ベース教育（Content-Based Instruction）」という教育方法にあります。英語Ⅰ・ⅡはGlobal IssuesまたはEnvironmental Issues、日本語Ⅱ・Ⅲは専門教育担当教員からのアンケート調査に基づき独自開発したテキストによる教育を行っています。英語Ⅲ、日

本語Ⅳは、付接モデル（Adjunct Model）としています。

付接モデルとは、学術科目が取り上げるトピックを題材に英語または日本語の授業を運営するという方法です。わかりやすく言えば、学術科目の講義内容がテキストになるというイメージです。この方法はイギリス等の大学におけるチュートリアル・システムに似ています。週4回の授業のうち、1回目は学術科目に先立って行われます。講義で用いられる専門用語や概念を前もって教えることにより講義の理解を促進することがねらいです。残り3回は講義の後に行われ、講義のフォローアップや講義内容を深めるディスカッションやプレゼンテーション等が行われます。これは、入学基準の言語と異なる言語での専門学習を行う上での予行演習の役割も果たしています。

### 3. 専修言語教育科目

APUでは、学生の卒業後の進路をにらみ、学術目的ではないスキル養成に主眼を置いた科目も設置しています。いずれも上級者を対象としており、通訳英語（英語と日本語の移し替え）、通訳日本語（日本語と英語または中国語または韓国語）、ビジネス英語、ビジネス日本語、メディア英語、メディア日本語、日本語





教育技術を開発しています。

#### 4. アジア太平洋言語

APUでは、英語、日本語以外の言語として、中国語、韓国語、マレー語・インドネシア語、スペイン語、タイ語、ベトナム語の授業を開発しています。世界の言語教育の一般的傾向は、1) 国内の言語、2) 近隣諸国の言語を重視する傾向にあります。ヨーロッパでは、他のヨーロッパ諸国の言語がよく学ばれていますが、中国や韓国では日本語もよく学ばれています。しかし、日本では、近隣諸国の言語より、遠方のヨーロッパ言語を学ぶことが主流でした。APUはこの傾向に一石を投じ、言語教育の面からもア



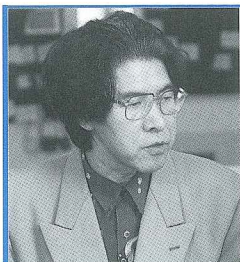
ジア太平洋地域との関わりを重視しています。

#### 5. 能力別科目編成と履修免除制度

カリキュラム面での特徴は、ナンバー(I・IIなど)をつけているすべての科

目について、到達目標ごとに科目編成をしていることです。

その必然的帰結として、能力のある学生は各科目の到達目標をクリアしていれば、当該科目の履修は免除されます。



### 新時代へのアプローチ — アジア太平洋言語への視線

言語教育センター長 大橋克洋

＜新時代へのアプローチ＞は、APU開学準備に携わった者たちの掛け声であり合言葉であったが、それはまた、この新生大学の言語教育を特色づける標語でもある。二言語併用主義、コンテンツ・ベース教育、付接モデル、シェルタード・コース、学術目的の言語、環境利用の言語教育、Language Exchange…。APUの言語教育を読み解くためのキーワードは数多い。大方の意表をつく試みが含まれているかもしれない。ある部分は新奇にひびくかもしれない。だが、すべては新しい時代への接近法として構想され、練り上げられたものであり、いたずらに伝統に抗ったわけではない。

APU言語教育の＜新時代性＞を語るとき真っ先に挙げなければならないのは、この大学が果敢にも打ち出したアジア太平洋地域言語重視の立場である。提供言語（現在8種）のすべてを同地域の重要言語に限る政策を意味する。8種言語はカリキュラム上、日本語・英語とアジア太平

洋言語（AP言語）に区分されるが、本稿では、きらびやかな話題性をもつ日英二言語教育の陰に隠れがちなAP6言語（中国、韓国、マレー・インドネシア、スペイン、タイ、ベトナム語）を取り上げ、その教育理念と現況を素描してみた。

世界の言語教育政策の一般傾向は国民に身近な言語を重視することである。まず国内言語、ついで近隣諸国の言語へと学習の手を伸ばすのが普通なのである。かくしてベルギーではフランス語とフラマン語、カナダではフランス語と英語、アイルランドではアイルランド語、アメリカではスペイン語が最もよく学ばれる。中国や韓国でも日本語がよく学ばれている。そのような趨勢の中で、国内言語には目もくれず、近在アジアの言語にもさしたる関心を向けなかった近現代日本人の言語学習は異例に属した。これまでひたぶるに、遥かなるヨーロッパの言語を学び続けてきた感があり、世界における彼我の地位格差がなくなった今日なお、英語とフランス語は日本人学生の愛してやまない言語であり続けている。



のである。国際標準と新時代に向けて旧態を打破することを辞してはなるまいが、アジア太平洋世界と関わりの深い九州の一角からその突破口を開こうというのがアジア太平洋言語重視の裏にあるAPUの意思であったことをここで復習しておきたい。まったくいかなる形でもフランス語やドイツ語を提供しない大学はわが国には少ないかもしれないが、外国語系の大学を除き、アジア太平洋地域の言語をこれだけ並べた大学も珍しいはずである。

開学後2年半が経過し、当初、フランス語やイタリア語が学べないことに失望の色を浮かべた学生たちの意識によろしく変化の兆しが見られる。＜近隣重視＞をなだらかな考え方として受容する向きが多く、APUがみせた世界標準への重大な歩み寄りには学生間で一応の評価を得ているとみてよい。受講者の大半を占める日本人学生に関して言えば、近隣アジア諸国の言語に熱い眼差しを注ぐこともなく推移した日本近代の姿を批評的に振り返る態度が芽生えてきている。21世紀における日本人の対外認識を考える上で、国土の一部で若者に萌したこの意識変化は、小さいようで小さくない。

いま一つ＜AP言語効果＞とでも言うべき事態の発生をみた。APUの学生が過去に学習した外国語は、多くの場合、英語のみである。この、

決してやさしくはない言語を学び続けてきたことが、不幸にも彼らの外国語観一般を形づくってしまった。だが、「外国語はむずかしく、その学習はつらいもの」という、英語体験が作り出した固定観は今、アジア太平洋言語との接触によって徐々に修正されつつある。AP言語6種はどれも、少なくともアジア系学生にとっては、英語ほどむずかしくはない。日に日に上達実感を味わえる言語なのである。「外国語とは、何やらやさしくて楽しいもの」という新たな外国語観が発芽しようとしていることはきわめて意義深く、かつよろこばしい。

英語以外の言語を学ぶことは大学生になったことの証しとみられるであろう。筆者の時代には、通例フランス語かドイツ語を学ぶことで、それをどうにか証示したものの、運用まではいかなかった。APU学生はタイ語やベトナム語を学び、かつ運用することによって大学生であることを闡明しているかのようである。中国語、インドネシア語、その他が盛行する場所で、APUが日本語と英語を基軸言語としていることは紛れもないが、そのことが決して他言語をないがしろにするということには繋がっていない。APUキャンパスはそのような場所であると言えば、いくらか分かりやすくなるであろうか。

## Report

# APU大学院の設置に向けて —これまでの日本にはない国際的な大学院の設置—

## GRADUATE SCHOOL

### APU大学院設置の意義

2003年4月に設置を計画しているAPU大学院は、学部教育を大学院レベルで一層発展させ、国際社会を舞台に、アジア太平洋地域が内包する問題を実践的に解決できる政策志向の人材の育成を行い、この地域における経済社会の発展ならびに産業育成に貢献し、国際協力の一助となる役割を果たすことを基本目標としています。

このようなAPU大学院を設置することは、次のような意義を有するものです。

第一は、アジア太平洋地域における産業育成と国際協力のための人材育成を積極的に推進するものであり、日本政府による発展途上国開発援助としての人材養成支援の一端を積極的に担うものです。

第二は、APUが構築を進めている「アジア太平洋学」は、大学院の設置により研究機能を一層高めるものであり、新しい教育研究領域の開拓と発展に資す

るとともに、「アジア太平洋学」の研究拠点の構築をめざすものです。

第三は、アメリカ合衆国のビジネススクールの経験者を招へいすることにより、経営管理研究科において国際的スタンダードのMBA実現をめざすものです。

第四は、大分県に立地するAPU大学院は、アジア太平洋地域との積極的な交流を進めている九州における高度な国際交流・教育研究拠点の構築に寄与するものです。このことは同時に、地域の国際





化と地域振興への貢献をめざすAPUの基本目標を一層発展させるものです。

第五は、総合学園である立命館の中で、大学院設置を通じてAPUの国際性を一層高めることは、多角的な取り組みを推進している学園の国際化をもう一段高め、21世紀社会の中での総合学園としての役割を飛躍させることに繋がるものです。

### APU大学院のフレーム

APU大学院は、学部教育を発展させ、有為な国際的人材を育成するために、現在の学部を基礎に、アジア太平洋研究科と経営管理研究科の二つの研究科を設置します。

アジア太平洋研究科は、アジア太平洋地域の持続的発展と共生を担う専門的人材育成と、アジア太平洋研究のネットワークの拠点としての役割を果たす研究科として設置します。

アジア太平洋研究科には、アジア太平洋学専攻および国際協力政策専攻の二専攻を置きます。

アジア太平洋学専攻は、主として「アジア太平洋学」の構築を担う人材の育成をめざすことから、博士課程後期課程も同時に設置し、早期に新しい教育研究体系の中核となること（研究者養成）をめざします。

国際協力政策専攻は、日本政府による発展途上国開発援助としての人材育成支援の一端を積極的に担います。

経営管理研究科（MBA）は、経営管理専攻の一専攻を置き、発展を続けるアジア太平洋地域を中心に行動する企業の幹部候補生および高度なマネジメント・スキルを有する専門的人材を育成します。国際標準のMBAコースの内容を提供し、アジア太平洋地域におけるMBAニーズに応える研究科として設置します。

### APU大学院の教学上の特徴

APU大学院は、前述のような意義を実現するために、次のような特徴を有する大学院として設置します。

第一に、国際的で多様な学生構成を実現します（学生の約7割は国際学生とす

る）。

第二は、教育言語は基本的に英語で行います。

第三は、入学時期は4月と10月の年2回とし、2セメスター・2セッションにより授業を行います。

第四は、高度な専門性を有した人材を育成するため、国際的通用性を有する教育課程の編成、学位取得、標準的な教育方法等を積極的に導入し、国際的競争優位システムを確立します。同時に、国際標準を確保するため、アクレディテーションの基準を参考にするとともに、短期間（修士は1年、博士は2年）での修了も可能とします。

第五は、e-learning、遠隔教育、Web CT (Course Tools)、教学データベースなど、情報技術を積極的に活用した教育方法を導入します。Web CTは学部教育にも積極的に導入し、大学院の設置を通じて学部教育のIT化を一層推進します。

第六は、理論と実務のパートナーシップや国際的通用性を有した教育を行うために、協定大学・研究機関との関係を軸に国際的ネットワークを強化します。

第七は、立命館大学と連携した大学院として設置します。とりわけケース研究・開発については共同化により、アジア太平洋地域で展開する企業に焦点を当てるものとします。

このような基本計画に基づき、各方面の支援と協力を得て、2002年6月に文部科学省への設置認可申請を行いました。教員の体制整備などを進めながら、2003年4月の開設にむけて、学生募集などの準備を行っております。



# Scholarship Program 奨学金制度

APUでは、アドバイザー・コミッティやサポーティンググループのみなさまからのご寄付によって、充実した国際学生への奨学制度を整えています。

また、これらの奨学制度に加えて、さまざまな企業、個人のみなさまからの特別なご支援によって、下記のような個別奨学金（冠奨学金）を設置しています。

これらに引き続き、今年度から次の冠奨学金を新設いたします。

【企業】アサヒビール奨学金、Canon Scholarship 【個人】服部榮市国際学生奨学金

## 安藤百福名誉博士奨学金受賞者の紹介

2000年4月、2001年4月入学者対象選考の結果として、次の学生が採用されました。

### [2000年4月入学者]

倉田 野依（APS3回生、日本）

張 維（APM3回生、中国）

KAZI, Rahman（APM3回生、バングラデシュ）

### [2001年4月入学者]

VADHANAKOVINT Pichaya（APS2回生、タイ）

CHALERMKARNCHANA Tom（APM2回生、タイ）

ANSAH, Emmanuel M.（APM2回生、ガーナ）



## ■ 奨学金受給代表者の感謝のこたえ

### 安藤百福名誉博士奨学金

張 維（APM3回生、中国）

今回、安藤百福名誉博士奨学金を授賞させていただき、たいへん光栄に思います。私は、昨年一年間、言語と専門授業の勉強以外に、数多くの社会活動に参加してきました。来日前に、観光ガイドとして国際旅行会社で働いたことがあったため、中国の歴史、地理、風俗習慣などに詳しいです。この経験を生かして、今まで亀川小学校、大分県立南高等学校、別府養護学校などへ講師として、生徒たちに中国について紹介し、皆さんに中国への理解を深めてもらえたのではないかと思います。今、早期卒業プログラムに登録していますが、良い成績でAPUを卒業することと、大学院への入学をめざしてがんばっています。

今回の奨学金は私にとって、経済的な面だけではなく、精神的にも力になりました。

安藤百福博士はビジネス界において成功され、社会への貢献度でも高く評価されています。学生の私にとって、ただ勉強をがんばるだけではなく、自分にできることを生かした社会活動への参加も大事なことです。これから社会人になる私にとって、仕事の成功だけではなく、社会へのどのくらい貢献できるかについても考えていきたいと思います。

ここで、真心を込めて、改めて安藤百福博士に感謝の意を表します。



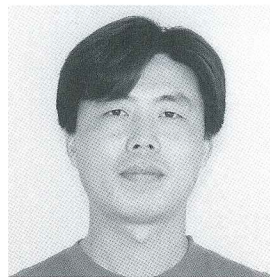


## SANYO Scholarship

朴 天浩 (APM3回生、中国)

2回生の後半からSANYO Scholarshipを受給することができ、とてもありがたく思っています。この奨学金は私に、金銭面だけではなく、やればできるんだという自信を与えてくれました。留学生活において、精神的、時間的にもよりゆとりができ、いろんなことができるようになりました。今年の夏休みには大手の会社の経理部門で研修させていただき、大学での専攻である会計知識を、その活動が実際に行われている現場において自分の目で見ながら、身につけたいと思っています。

21世紀は国際化の時代、そしてその主役はアジア太平洋地域だと思います。ここでは経済活動の活発化、交通手段や通信手段の発達、特に近年のインターネットの爆発的な普及を背景として、個々の国や地域の間につながりが強まり、一体性が急速に進んできました。このような時代の中、私は日本での留学で身につけたいろいろな知識を生かし、アジア太平洋地域という国際舞台で将来活躍することを夢に、残り1年半の留学生生活をより充実させていきたいと思っています。



## 東芝奨学金

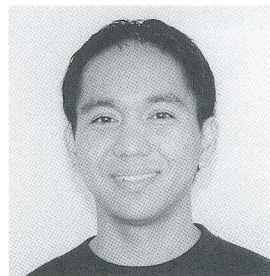
MANUS, Mamert B. (APM3回生、フィリピン)

フィリピンで東芝奨学金がAPUに提供されると聞いたとき、すぐに興味を持ちました。私はずっと日本に来て住みたいと思っていたのですが、東芝奨学金はそれ以上のチャンスを与えてくれました。日本で勉強できることになったのです。

母国では、Toshiba Information Equipment (Phils.), Inc. [TIP]で働いていましたが、思い切ってこの奨学金に応募してみることにしました。一度社会人を経験して、また勉学に戻ることで、より多くの技術や知識を得ることができるからです。APU

で学んでいることは、すべて将来に活かしていきたいと思っています。

この東芝奨学金を設立してくださった株式会社東芝相談役の佐藤文男様、そして私を信じて採用してくださった審査委員会の方々には感謝申し上げます。また、APUに来ることを許可してくださったTIPにも感謝しております。私をサポートしてくださったナガモト様、ムクシ様、Bunag様、ナカジマ様、タカハシ様、そしてTIPの社員の皆様、ありがとうございました。

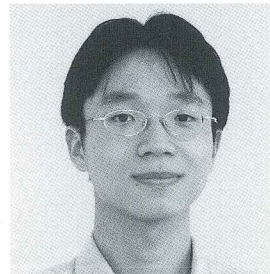


## 韓国ヤクルト奨学金

JOO Sun Joong (APM3回生、韓国)

どんな言葉でこの感謝の気持ちを表現したら良いかわかりませんが、本当にありがとうございました。早いもので、私ももう3回生になりました。私がAPUについて初めて知ったのは高校生のときで、その時はAPUへの入学についても、留学そのものについてもかなり悩みました。韓国よりも物価の高い日本に留学するとなれば学費や生活費がたかさんかかるだろうと心配になったからです。しかし、私が韓国ヤクルトの奨学金をいただけることになり、4年間経済的な心配をすることなくAPUで勉強できるこ

とになり、もう2年少しが経ったのです。韓国ヤクルト奨学金を学費や生活費以外にも役立てることができました。昨年はノートパソコンを買いましたし、今年は語学研修を計画しています。大学生活はあと2年も残っていませんが、自分のためにはもちろんのこと、私にこのようにすばらしい留学する機会を与えてくださった韓国ヤクルト会社の方々のためにも、これからもっと熱心に勉強して韓国と日本の掛け橋になれるような人材の一員になりたいと思います。





## APU International Volunteer Week

# APU国際ボランティア・ウィーク

### 【APU国際ボランティア・ウィークとは】

2002年2月13日、APUは、2002FIFAワールドカップ開催に伴い、大会会場での開催期間にあたる6月10日から6月16日までを「APU国際ボランティア・ウィーク」と位置づけ、全学生・教職員が世界中から訪れる人を支援するとともに、来訪者および県民・市民との交流を積極的に行う期間とすることを発表しました。

具体的には、次の4点を取り決めました。

- ①6月10日から6月14日までの授業は、ボランティア活動やイベント参加に振り替え、学生・教職員が国際ボランティア・ウィークに参加できるようにする。
- ②期間中はAPU独自のイベントをキャンパスで開催する。
- ③大会会場において各種ボランティアとして大会成功に向けて積極的に協力する。
- ④大会会場以外でも、学生が公的ボランティアに参加する場合は大学として支援する。

### 【ボランティア活動への取り組み】

JAWOC（2002年 FIFA ワールドカップ日本組織委員会）、開催地ボランティア、HBC（放送業務ボランティア）には130名余りの学生が登録し、大会会場での通訳やメディアサービスなどのボランティアにあたりました。HBCボランティ

アでは、札幌、埼玉、大阪、横浜の会場で放送業務のアシスタントを行う学生もいました。

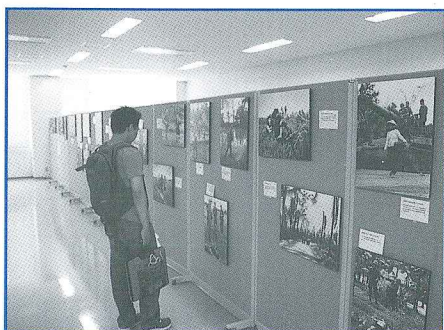
また、学生たちが「World Cup Volunteer Project Group」を組織し、別府公園から別府駅までの通りを清掃したり、「English」「Español」「中国語」などの札を1000個作り、語学ボランティアに配布するとともに、学生自らが札をつけて語学ボランティアをしたり、また「世界の言葉でこんにちは」という10カ国語のあいさつの冊子を作り、別府市内の全小学校17校に7000冊を配布したりといったボランティア活動を行いました。

作った札は多くの案内所でボランティアの方々の胸に付けられ、またあいさつ冊子の配布は県内多くのマスコミが関心を持ち、好意的に報道してくださるなど、学生たちの活動は高い評価を得ました。

その他にも多くの学生が地域ボランティアなどに参加し、各々にワールドカップというイベントに関わることでできたと言えます。

### 【学生のイベントへの取り組み】

APUは大分県から「ワールドカップ・パーク」に指定され、期間中、キャンパスに於いてさまざまなイベントを開催しました。その中心となったのが、「Baseイベント」という学園





# クの取り組み



祭実行委員会の組織です。「Baseイベント」を中心に、今年2月から各サークルが企画を立て、「APUイベントウィーク2002」として、6月7日の「APU EXPO Advanced 2nd」(前夜祭)を皮切りに、6月16日まで数多くのイベントを実施しました。「春の大運動会—APU OLYMPIC—」は快晴の空の下、午後1時にスタートし、午後9時まで約600名の学生が競技に参加しました。8日からは、写真部の学生たちによる「石川文洋写真展」、芸術展「個」、「APECO」、「国際協力研究展示会」などの各種展示が始まりました。

APUの学生たちが高校時代に使っていた歴史の教科書を30カ国・地域から集めた「世界の歴史教科書博覧会」では、それぞれの国における日本に関する記述を日本語と英語に翻訳して教科書と共に展示し、期間中は4日間で約1,500人の来場者を集めました。

14日から16日にかけては、模擬店(32店)・フリーマーケット(13店)や各種ステージイベントが開催されました。15日の「伝統芸能祭」では、神楽、箏曲、和太鼓とテコンドの競演などAPUならではの多国籍の学生たちによる伝統芸能

が披露されました。また立命館大学からも和太鼓サークル・能楽部が参加し、会場を一層盛り上げました。16日には、日本と韓国の学生が自分たちの文化・歴史観などについて討論するという企画「日韓ガチンコ討論会」(約200人参加)が開催されました。ワールドカップ日韓共催にちなんだ企画でもあり、内外から注目を集めました。

## 【大学の企画】

学生のみならず、教職員も「JICA総裁講演会」(約600人参加)、APU講座『ワールドカップと日本観光の促進』、相談会「外国人の日本就労について」、スタンプラリー、「受験生対象オープンキャンパス」など、さまざまな取り組みを行いました。県下8高校に教員を派遣した出張講義も好評でした。

APU国際ボランティア・ウィークは天候にも恵まれ、延べ10,000人の来場者を数えました。APUにとっては、さらにネットワークを広げるとともに、国内外にAPUを発信する機会でもありました。





# Topics on APU

## 大学院棟起工式を執り行いました

5月18日、来年4月に開設を予定しているAPU大学院棟の起工式を執り行いました。式には学校法人立命館の川本八郎理事長、甲賀光秀専務理事、APUの坂本和一学長らが出席し、工事の無事を祈願しました。

新しい建物は、3階建ての鉄筋コンクリート造りで、現在ある教室棟の西隣に立地し、200名教室1室、300名教室2

室、階段教室1室、個人研究室10室などを収容します。

2003年の1月に竣工する予定です。



## 「APU-Club・国内学生父母の会」設立総会が開催されました



5月18日、APUにて、「APU-Club・国内学生父母の会」設立総会が、全国から集まった国内学生の父母ら164家族、200人

の参加で盛大に行われました。

当日は、学校法人立命館の川本八郎理事長、甲賀光秀専務理事、APUの坂本和一学長らが出席して大学側からの報告が

行われ、引き続いて総会が開かれました。総会では、設立呼びかけ人側から提案された会則、事業計画、役員構成等が、参加した父母らとの間で活発な意見交換が行われた上、承認されました。

今後は、APUの教育活動に対する援助および文化的諸事業を通して、大学の充実、発展および会員相互の親睦をはかることを目的として諸活動を行う予定です。



## Higher Colleges of Technologyと協力協定を締結しました

5月27日、坂本和一APU学長がアラブ首長国連邦を訪れ、アブダビにあるHigher Colleges of Technology (HCT)と立命館大学およびAPUとの学術包括協定調印式に出席しました。HCTからは同国の高等教育・科学研究大臣でもあるナ



ヒアン総長が出席されました。調印式の模様は、インターネットにてAPUに中継されました。

APUの教学方

針に鑑みて、APUとの協力関係を構築したいとのHCTの希望がコスモ石油株式会社を通じて伝えられ、今回の協定締結が実現したものです。

HCTは、UAE連邦政府の出資によって設立された大学で、産学連携や理論と実践の融合に力をいれており、近年国内外において注目を集めている先駆的な大学です。コンピュータ技術やeコマース等の教育分野の充実をめざしており、インターネットによるウェブゼミナールについては、すでにAPUとの間で実験が進められています。今後は、教員・学生交換や共同研究・会議、文化交流等において協力しあっていく予定です。



## JICA（国際協力事業団）総裁講演会が開かれました

6月14日、APU国際ボランティア・ウィーク企画の一つとして、JICA（国際協力事業団）総裁の川上隆朗氏による講演会がミレニアムホールで開催されました。テーマは「21世紀における日本の国際協力と求められる人材」で、総裁は約1時間にわたり、日本国と海外援助との関わりについて、援助される国から援助する国へ発展した歴史や現状、援助をめぐる世界の動き、JICAの事業や役割、今後の展望などについて、具体例をあげながら、詳しくお話しされました。国際協力を推進するJICAの事業や役割は、APUの理念や学修内容とも一致するものであり、講演に参加した約600名の学生たちからは、多くの質問が寄せられ、総裁はそれぞれに丁寧に回答されました。

また、講演と並行して、JICAのスタッフが別室で個別相談会を開き、多くの学生が「海外青年協力隊に参加するために

はどうしたら良いのか」「JICAの仕事について」「JICAに就職するには」などの質問を積極的に行い、説明を受けていました。



## 立命館アジア太平洋大学 国・地域別の学生数（2002年4月1日付）

### ◎アジア

国・地域	1回生および 2回生の総学生数	2001年10月 入学人数	合計（人）
韓国	193	102	295
中国	144	45	189
台湾	79	4	83
ベトナム	63	17	80
インドネシア	54	11	65
インド	31	9	40
タイ	30	10	40
スリランカ	29	7	36
マレーシア	19	2	21
フィリピン	7	8	15
パキスタン	9	4	13
バングラデシュ	10	2	12
ネパール	11	1	12
シンガポール	9	3	12
ラオス	11		11
ミャンマー	10		10
モンゴル	6	2	8
カンボディア	4		4
イラン	2		2
ヨルダン	2		2
グルジア	1		1
シリア	1		1
トルコ	1		1
ウズベキスタン	1		1
小 計	727	227	954

### ◎アフリカ

国・地域	1回生および 2回生の総学生数	2001年10月 入学人数	合計（人）
ガーナ	8	5	13
ケニア	9	4	13
ナイジェリア	7	3	10
エチオピア	4	1	5
ウガンダ	4	1	5
マラウイ	2	1	3
カメルーン	1	1	2
ジブチ	2		2
マリ	2		2
スーダン	2		2
ジンバブエ	2		2
コモロ	1		1
マダガスカル	1		1
モロッコ	1		1
ザンビア	1		1
小 計	47	16	63

### ◎アメリカ

国・地域	1回生および 2回生の総学生数	2001年10月 入学人数	合計（人）
アメリカ合衆国	16	1	17
カナダ	8		8
エクアドル	2		2
ボリビア	1		1
小 計	27	1	28

### ◎オセアニア

国・地域	1回生および 2回生の総学生数	2001年10月 入学人数	合計（人）
オーストラリア	5	3	8
バブアニューギニア	2	3	5
サモア	2	2	4
ニュージーランド	2	1	3
パラオ	1		1
トンガ		1	1
小 計	12	10	22

### ◎ヨーロッパ

国・地域	1回生および 2回生の総学生数	2001年10月 入学人数	合計（人）
リトアニア	7	1	8
イギリス	7		7
ハンガリー	5	1	6
ブルガリア	5		5
ロシア連邦	4		4
フィンランド	3		3
ルーマニア	3		3
エストニア	2		2
ポーランド	2		2
クロアチア	1		1
チェコ	1		1
ドイツ	1		1
イタリア	1		1
スロバキア	1		1
ウクライナ		1	1
小 計	43	3	46

### ◎合計

国際学生（留学生）合計	856	257	1113
国内学生	976	573	1549
APU学生総計	1832	830	2662

注 国際学生とは、在留資格が「留学」である学生をいう。  
国内学生には、在留資格が「留学」ではない在日外国人を含む。





**APU** 立命館アジア太平洋大学

〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1 TEL.0977-78-1114 <http://www.apu.ac.jp/>